

全国ユース 環境ネットワーク

第7回全国ユース
環境活動発表大会
全国大会 出場16校



第7回 全国ユース環境活動発表大会

令和4年1月21日(金)～1月31日(月)、

「第7回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」が開催されました。

2月8日(火)、表彰式が開催され、山口壯環境大臣よりご挨拶をいただきました。

ご挨拶

環境大臣

山口 壯



皆様こんにちは。環境大臣の山口壯です。

第7回全国ユース環境活動発表大会表彰式の開催にあたり、一言、御挨拶申し上げます。

本大会は、持続可能な社会の実現に向けた、環境活動を行うユース世代の皆さんに対し、交流や発表の機会を設けるとともに、優れた取組を表彰することにより、皆さんの活動を応援することを目的に、環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学の共催により開催しています。

本年は、全国から90校の応募があり、8地区の地方大会を経て選抜された16校が全国大会に出場されました。いずれの活動も様々な環境課題の解決に、粘り強く取り組んでおられるとともにユースならではの発想を持った活動でした。みなさんの一生懸命な活動の様子に私も深く感じ入った次第です。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、授業のオンライン化や学校行事の制約など、みなさんの学校生活にも様々な制約があった中、仲間と知恵を絞り、試行錯誤を繰り返しながら、環境活動に力一杯取り組まれました皆様に、心からの敬意を表したいと思います。そして、その活動を様々な形で御支援くださった、先生、地域の皆様、関係者、保護者の皆様に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今、豪雨や猛暑といった異常気象など、気候変動の影響が既に現れつつあります。この「気候危機」とも言うべき状況を受け、昨年グラスゴーで開催され私も参加したCOP26では、日本の貢献もあり、気温上昇を1.5度に抑えるために、世界各国が温室効果ガスを迅速、大幅かつ持続的に削減することが合意されたところです。この合意の実現のためには、2030年までが人類の正念場、勝負の時です。

環境省では、特に地域の取組に着目し、先月から2030年までに先行して脱炭素を実現する「脱炭素先行地域」の募集を開始したところです。また、我が国のCO₂の排出の6割が私たちの生活、即ち衣食住に関連しており、一人一人が自分事として、その暮らし方も変えていくことが重要です。

このような脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた、未来の社会をつくるのは「人」であり、特に、今後の気候変動の影響を最も受ける一方で、2050年カーボンニュートラル実現の主役となるのがユース世代の皆さんです。私も、グラスゴーで、現地に来て気候変動対策を強く訴える高校生にもお会いし、その熱い思いに心動かされました。本大会に出場された皆さんが、全国の同世代の牽引役として、今後、避けて通れない持続可能な社会づくりの担い手として、社会で活躍していくことを大いに期待しています。

最後になりましたが、高校生の皆様、そして生徒に寄り添い、活動を支えて下さっている先生方・保護者の皆様、高校生を応援し御指導いただいた地域の皆様に感謝するとともに、御健康と御多幸を祈念いたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。





第7回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

〈実施概要〉

日程 令和4年1月21日（金）～1月31日（月）（オンライン開催 動画発表）

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
（環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステナビリティ高等研究所）

後援 読売新聞社

協力 地方環境パートナーシップオフィス（EPO）／地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）／ESD 活動支援センター

協賛 キリンホールディングス株式会社／協栄産業株式会社／SGホールディングス株式会社／株式会社タニタ



受賞校のみなさん、おめでとうございます！

全国8地方の地方大会から選出された16高校（団体）が全国大会に出場しました。

今年も、新型コロナウイルスの影響で環境活動やSDGs活動が制限される中、

全国の高校生が熱心に活動を続けてきました。

発表大会は、高校生が発表動画を制作して応募。Web上で動画を発表・閲覧し、審査を行いました。

いずれの活動内容も発表もすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめ

すべての出場高校に賞が贈られました。

表彰された16高校の活動をご紹介します。

👑 環境大臣賞

青森県立名久井農業高等学校

FLORA HUNTERS

視点はSDGs 節水型塩害抑制技術の開発

世界には塩類集積のため農業ができない乾燥地が広く存在します。そこで私たちは、蒸発する土壌水分の動きと製鉄業の副産物である転炉スラグを用いて、塩類集積の発生を抑制する節水型システムを開発しました。乾燥地を模したガラス温室で塩類集積を完全に抑え、作物が栽培できることを証明できました。遠く離れた南国の人たちを思い、今日も活動に励んでいます。



👑 環境再生保全機構 理事長賞

群馬県立尾瀬高等学校

理科部

地域のシカ問題を考える～私たちの取り組む4つの行動～

貴重な植生がニホンジカによる被害を受けています。今ある自然をこれからも残し、美しい景色を取り戻す活動を行っています。私たちは、「育て・増やす」「守る」「調べる」「伝える」の4つの行動をとりました。この活動を行うにあたり地域の多くの方々と関わりました。

私たちだけで解決できることは多くなく、地道に粘り強く取り組んでいこうと思っています。



👑 国連大学サステナビリティ 高等研究所 所長賞

愛媛大学附属高等学校

理科部プラガールズ

海洋性細菌を利用した海洋マイクロプラスチック汚染解消への挑戦

県内の海浜に漂着しているマイクロプラスチックの調査を行い、生分解性プラスチック化が望ましい製品について検討し、製造企業に生分解性製品化の可能性について提案しました。天日塩中から海洋性細菌を単離培養して生分解性プラスチックを合成させて海洋で分解されることを確認しました。さらに、経済的な生分解性プラスチックの生産技術の開発に取り組みました。



第7回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

👑 読売新聞社賞

富士宮高校会議所

SDGs 実践マスマス元肥（げんぴ）を使って、富士宮をマスマス元気に！！

富士宮市のニジマス養殖量は日本一である。ニジマスの残渣処理について調べたところ産廃処理していることがわかった。そこで、同じく地元の特産である朝霧牛の糞尿とコラボして堆肥化できないか検討し成功した。さらにこの堆肥が有効な農産物を二次加工してスイーツ等の製造を行い、ビジネスとしての成立させることが低炭素社会、持続可能な社会作り不可欠と考え実践した。



👑 高校生が選ぶ特別賞

長野県佐久平総合技術高等学校 食品加工部

酒粕をアップサイクル ～カスを価値に 未来へ佐久咲け！～

酒米の栽培から日本酒の醸造・販売に取り組んでいます。その中で、日本酒造りの副産物として出る「酒粕」の需要が低迷しているという地域の課題を知り、食品ロスの削減と地域活性化を行うことを目的に活動をスタートしました。地元パン屋、洋菓子店さんの協力の下、商品化を達成！佐久市内11の蔵元すべての酒粕が、地域を盛り上げる資源となるように探求し続けます！



👑 先生が選ぶ特別賞

京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探究部② 大手川探検隊

人、川、ハッピー ～大手川の手がかり～

大手川を長く市民に愛されるような川にすることを目標に活動を始めました。調べていくと絶滅危惧種の魚がいることや行政と住民が一緒になって作りかけていた親水公園があることなど、川を魅力的にするヒントが多くあることを知りました。私たちは、親水公園の再生に着手し、おさかな図鑑の制作などを計画しました。大変な管理をどう続けていくか、模索しています。



審査委員・講評

〈審査委員長 講評〉

受賞されたみなさま、本当におめでとうございます。新型コロナ禍の中、ご参加いただいた90団体のみなさまに心から御礼を申し上げます。また、全国大会に選ばれた16団体の方々にも御礼とおめでとうを申し上げます。

発表動画を拝見いたしました。どのチームもすばらしいチャレンジングな活動で、まさに甲乙付け難いレベルの高いものばかりでした。いずれの高校生の活動も地域の環境課題の解決に寄与するもので、特にすばしかったのは地域住民の方々と、また企業や行政、先輩方も巻き込みながら活動を展開されているところです。連携、協働に基づいた自発性のある活動をしていることが高く評価されました。

特に感心いたしましたのは、地域の資源を活用する際に、学校で学んでいる技術シーズや科学的思考とか社会的思考に裏付けられた調査研究に基づいた学術的にも質の高い活動になっていることです。そして、社会実装する社会貢献活動や日本の多くの地域への横展開、世界への寄与、ビジネスモデルにも成功し商品化するものまで、まさにSDGsにつながる期待できる活動が多くありました。

最後になりましたが、ご指導をいただいた高校の先生方、地域の方々、企業や行政の方々、専門家の方々に感謝を申し上げて、また全国で日々活動を展開している高校生のみなさまの更なる活動の発展を期待して委員長の講評といたします。

ありがとうございました。本当におめでとうございます。



審査委員長

萩原 なつ子

立教大学社会学部
21世紀社会デザイン研究科
教授



審査委員

東 武雄

読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
事務局長



審査委員

竹本 明生

国連大学
サステイナビリティ高等研究所
プログラムヘッド



審査委員

小辻 智之

独立行政法人環境再生保全機構
理事長



審査委員

浅原 堅祐

環境省大臣官房総合政策課
環境教育推進室
企画官



審査委員

曲輪 正昭

協栄産業株式会社 常務取締役
企画官





優秀賞10校のみなさん、おめでとうございます！

👑 優秀賞 北海道大野農業高等学校

果樹専攻班

地域内循環を中心とした環境保全型農業を目指して

本校果樹園ではAS I AGAP 認証を取得し、できる限り農業に頼らないIPMの学習をしています。粉殻や米ぬか、牛糞を混和させて試験を行い、米ぬかの混和区では発酵の促進を確認。発芽試験では未利用資源を活用した地域循環型農業への糸口をつかみました。



👑 優秀賞 北海道標津高等学校

自然科学部

綺麗な海を守ろう！ 標高生の3つの取り組み

綺麗な海を守るための活動に取り組んでいます。野付巡検は、野付半島先端の砂嘴で自然観察と漂着ゴミの回収。知床ゴミゼロ運動は生徒会が主体となり、町内の小中学生と海洋ゴミを回収。近隣3高校とも連携できました。海洋マイクロプラスチックの調査もしています。



👑 優秀賞 青森県立むつ工業高等学校

設備・エネルギー科 地中熱利用による融雪研究班

R3 課題研究 地中熱利用による融雪研究と農業

地中熱利用による融雪研究に取り組んでいる。今年度はビニールハウス建設に着手し、イチゴの水耕栽培に向け準備した。外気温とハウス内の温度データ取得を目指した。「工業」と「農業」のコラボレーションを地域振興まで育成することが「夢」である。



👑 優秀賞 長野県木曾青峰高等学校

里山部

青峰里山プロジェクト

担い手不足による里山の荒廃化に注目し、遊休農地や周囲の山林の整備に挑戦しています。今年は、遊休農地を活用し自然を体験できる「青峰里山パーク」を整備しました。保育園や小学校に向け、「青峰森りんびっく」や「青峰里山講座」も実施し交流しています。



👑 優秀賞 奈良育英高等学校

生徒会とユネスコ委員会

環境問題は深い

生徒会がユネスコ委員会の取組みを取材しホームページに掲載。問題解決に必要なのは、知ろうとする意思と行動力です。服などはフェアトレードのものをなるべく選ぶ、洗剤を無駄に使用しすぎないなど、日常生活から何か環境に貢献できる行動を起こしていくことです。



👑 優秀賞 出雲西高等学校

インターアクトクラブ

出雲西高発！！水環境改善プロジェクト

水環境保全活動 ①日本海岸清掃を43年間継続。②韓国の高校生とごみの問題を討議。③神戸川の清掃、水質、生物調査。サケの孵化に挑戦。④宍道湖の浄化活動のためヨシを植え、ヨシ刈りも行った。⑤出雲の森の植林、間伐、枝打ちなど森林の再生を試みた。



👑 優秀賞 岡山県立倉敷天城高等学校

プラズマ・モデルロケット研究班

プラスチックストローで宇宙をめざそう！

廃棄プラスチックストローを固体燃料として利用したハイブリッドロケットの研究開発を行った。酸素ガスをペットボトルに充填。下に取り付けたアルミ缶に不良品プラスチック製ストローを固体燃料として詰め込み100%打上げ可能な推進に成功。安全性や到達高度を確認した。



👑 優秀賞 香川県立三本松高等学校

三高みんなの食堂プロジェクト

三高みんなの食堂プロジェクト

食堂プロジェクトは全校生が参加者。地元の農業法人と一緒に環境にやさしい新たな形の学食を作る活動です。地域産業の廃棄物の革の端材を暖簾や内装に活用、使っていない漆のお盆や器を食堂で使用、規格外野菜などをおいしく食べるためのメニュー開発をしています。



👑 優秀賞 長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

環境保全活動 ～持続可能な消費と生産について～

地元農産物直売所と連携して、規格外のミニトマト入りショートブレッドを開発・商品化しました。販売会では地元の方々やマスコミ関係者に諫早産ミニトマトをPRできました。農産物の規格外品や農業廃棄物を有効利用することの大切さを学ぶことができました。



👑 優秀賞 大分県立大分工業高等学校

DAIKO風車プロジェクトチーム

DAIKO風車プロジェクト

CO2削減につながる再生可能エネルギーを作ろうと考えました。専門家などの話を聞きながら、自分たちにできることを模索。風車を製作し、太陽光の再生可能エネルギーを使って「SDGs」の看板を照らす計画にしました。無事に大看板の点灯式を迎えることができました。



全国大会では、出場団体の高校生が参加する「全国ユース環境フォーラム」を開催しています。このフォーラムは、さまざまな講師による「研修会」と、参加高校生同士で意見交換を行う「交流会」を実施しています。今年度は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、「研修会」は動画の視聴、「交流会」はオンライン上で開催いたしました。

全国ユース環境フォーラム研修会



講演 環境や持続可能性、SDGsをテーマに4名の講師から参加高校生に講演を行いました。講演の中では各講師の所属団体の紹介や、それぞれの立場、業務から見た環境問題とそれに対する取組等が語られるとともに、環境活動に取り組む高校生に対して熱いメッセージもおくられました。また、司会の2人からは、ユース世代の視点からの感想コメントも寄せられています。

国連大学サステナビリティ高等研究所
プログラムヘッド

竹本明生さん

講演テーマ

「SDGsとユースの世界最前線」

- ・国連大学の役割
- ・SDGsの歴史・世界や日本の現状・今後の課題
- ・SDGs達成に向け、ユース世代に期待すること



飯田さんの感想

「SDGsを通して日本と世界とのつながり、そして環境や経済、教育などさまざまなテーマのつながりを意識することで、普段の活動がさらに広がり、深められると感じました。」

環境省大臣官房総合政策課
民間活動支援室 企画官

浅原堅祐さん

講演テーマ

「2050年の環境問題」

- ・環境省で働くきっかけ、印象に残っている仕事
- ・既に起こりつつある/近い将来起こりうる気候変動の影響について
- ・環境としての今後のビジョン



須藤さんの感想

「今ある環境をこれからも享受するために、私たちがこれからどのように環境問題にかかわることができるか、具体的に、かつ楽しく、イメージできました。」

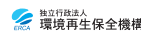
独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金部

廣瀬大輔さん

講演テーマ

「市民セクターの環境活動」

- ・環境活動に関わるようになったきっかけ
- ・地球環境基金との業務内容
- ・ユース世代が参加する環境活動の事例



飯田さんの感想

「将来みなさんが環境活動に取り組む際にサポートが必要になったとき、地球環境基金からさまざまな支援を受けられると思います。」

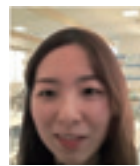
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

浦林貴子さん

講演テーマ

「地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) のご紹介」

- ・GEOCの役割
- ・環境情報の発信について (「環境らしんばん」 「オンライン展示ギャラリー」等)



※GEOCの活動については本誌P21で詳しくご紹介しています。

司会(研修の全体進行)

NPO法人新宿活動ネット **飯田貴也さん**



環境教育を推進するNPOの代表として、小学生や中学生に環境問題やSDGsを広げ、世代を超えて考えてもらう機会を作っている。

聖心女子大学3年 **須藤あまねさん**

大学生・ユースという立場から、地方創生や、コミュニケーションを通してコミュニティをどのように作っていくかをテーマに、学びながら活動中。

全国ユース環境フォーラム交流会

参加高校生

全体ファシリテータ

協力ファシリテータ

全国大会出場 16高校

NPO法人新宿活動ネット 飯田貴也さん

上智大学環境活動サークル「Green Sophia」

交流会は、16高校が4グループに分かれ、大学生のリードで「～みんなの活動内容とSDGsを紐付けてみよう～」というテーマで話し合いました。他校の高校生との多くの意見交換や、それぞれの活動への質問&回答も盛り上がりしました。





世界は変わる 君たちの手で

読売新聞教育ネットワーク記者 小川 祐二郎

前回大会から、出場校のみなさんの活動内容を紹介する「読売SDGs新聞」の編集・作製を担当している。お手元にも、この冊子とともに今回大会の内容を伝える新聞と一緒に届いているはずだ。この新聞を編集するために、全出場校の活動を文章と動画で確認するのだが、今回も「よくぞここまで」という報告が相次いだ。コロナ禍が続く中、これだけの質と量の報告が日本各地の高校生の手で作られ出した。

環境大臣賞に輝いたのは青森県立名久井農業高校。同校は例年、開発途上国の農業生産を改善するため、さまざまな妙案を雪国からひねり出してくる。

これまでに河川や湖沼の富栄養化対策として、水面に浮かべた筏（いかだ）の上で農作物を栽培し、水質浄化と食物収穫の両方をめざす方法を提案した。昨年は、乾期に貴重な雨水を集め、雨期に土壌の流出を防ぐため、玄関の三和土（たたき）に使われる日本伝統の技術を応用した。海外からの問い合わせも多いと言いつつ、このレベルの高さは大学の農学部でもまれなのではないだろうか。

今年は、乾燥地の死活問題である塩害を意外な材料で解決する技術提案だった。東日本大震災による津波で東北地方は塩害に苦しんだが、そのときは土壌に埋めた石膏に大量の水を加えて、塩害を抑えた。しかし、乾燥地ではそもそも水がない。では、どうするのか。今回は、その道筋が報告されている。

環境再生保全機構理事長賞の群馬県立尾瀬高校も、常連校だ。唱歌「夏の思い出」の舞台でもある湿原・尾瀬。その自然について、科学の眼をこらして高精度のフィールド調査を進めてきた。それに加え、今回はシカの食害で消滅しつつあるミズバショウの栽培・移植にまでこぎつけた地道な活動が評価された。

国連大学サステイナビリティ高等研究所長賞の愛媛大学附属高校は、大学生も真っ青になる研究成果をひっさげての出場だった。世界の共通課題である海洋プラスチック問題に挑み、休眠中の海洋細菌を天日塩から単離・培養して、環境中で分解するプラスチックを作ってみせた。「分解する」とうたってレジ袋に使われているバイオプラスチックの多くが環境中では容易には分解しないことも実験で確認。ジャーナリスト的な視点も光った。

読売新聞社賞を射止めた富士宮高校会議所は、静岡県富士宮市内の高校生たちがつくった学校横断の団体だ。市特産のニジマスの加工かすと朝霧牛の糞尿をまぜて肥料を作製し、これを使った農産物の加工食品を作るなど、地域の大人たちを巻き込んだビジネスモデルが高く評価された。高校生が選ぶ特別賞の長野県佐久平総合技術高校と先生が選ぶ特別賞の京都府立宮津天橋高校は、高校生らしいフレッシュな視点と行動力が他校から多くの票を集めた。

今回は入賞しなかったが、取材して記事にしたいという学校がいくつもあった。読売新聞社では朝刊全国版で「SDGs@スクール」という学校での取り組みを紹介するコーナーを設けている。私が所属する教育ネットワーク事務局も「2030 SDGsチャレンジ」というタイトルで学校での取り組みを応援している(<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/sdgs/school/>)。

我こそはという学校があれば、迷わず連絡してほしい。

SDGsのスローガンは「私たちの世界を変革しよう」(Transforming our world)。これぞという自身のアイデアを国内外の仲間に伝えることも、目標17が示すように世界を変えるSDGsの手法だからだ。

2030 SDGsチャレンジ

◎スクール・学校の取り組み

読売新聞で毎日掲載しているコーナーを中心に、学校での取り組みを発信します



2021年10月28日
新潟県大村町の森生（定城・志戸見
北小中学校）



2021年8月5日
SDGsの教員実践プロジェクト（熊本
県立高野中学校）



2021年7月28日
栃木県野良谷町（宇都宮県立東郷
中学校）

【写真は】SDGsに関する各学校の学びや取り組みを紹介する読売新聞教育ネットワーク事務局サイトの「2030 SDGsチャレンジ」コーナー



第7回 全国ユース環境活動発表大会

北海道 地方大会

2021/11/29~12/14 発表動画によるWeb開催
11高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

👑 地方大会最優秀賞 (全国大会出場)

北海道大野農業高等学校

果樹専攻班

地域内循環を中心とした環境保全型農業を目指して

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



👑 高校生が選ぶ特別賞 (全国大会出場)

北海道標津高等学校

自然科学部

綺麗な海を守ろう！標高生の3つの取り組み

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



👑 審査委員特別賞

whose×foodsプロジェクト

(学校外の有志によるプロジェクト)

whose×foodsプロジェクト

家庭での食品ロスを減らすために活動をしています。持続可能な取り組みを目指しています！



👑 先生が選ぶ特別賞

北海道美幌高等学校

環境改善班

オホーツクの自然を守れ！
～未来に繋ぐ環境改善～

特定外来生物ウチダザリガニを駆除、ニホンザリガニなど外来種保護を行っています。



👑 協賛企業特別賞

北海道標茶高等学校

地域環境系列 環境ゼミ森林班
森林の未来のカタチ！

地域住民へ自然環境を知ってもらい、災害による倒木を活用しSDGs達成に向けて取り組んでいます。



👑 協賛企業特別賞

市立札幌開成中等教育学校

チームOoho!

テイクアウトによって増えた使い捨てプラスチックをつかめる水Ooho!で代用する

コロナ禍で増加したテイクアウトによるプラスチックごみを削減するため、調味料Ooho!を作る研究を行っています。



👑 優秀賞

北海道標茶高等学校

地域環境系列 環境ゼミガイド班
一緒に学ぼう
私たちが発信する自然再生意義

地域住民や町内の小中高生を対象に「標茶高校自然満喫ツアー」を実施しています。



👑 優秀賞

北海道標茶高等学校

地域環境系列 環境ゼミ外来種班
双子池におけるウチダザリガニの生態について

ニホンザリガニとウチダザリガニが棲み分けを行う条件を見つけるために調査をしました。



👑 優秀賞

北海道羽幌高等学校

1学年

これからもつづく地球のために

天売島・焼尻島の海鳥を守るために海岸清掃や砂浜のマイクロプラスチック調査、ビオトープ公園の生物調査を行いました。



👑 優秀賞

市立札幌開成中等教育学校

太陽電池

色素増感太陽電池に最も適した色素は何か？

色素増感太陽電池の実用化のために仮説をたて実験をしていく。





優秀賞

北海道釧路北陽高等学校

3年選択 探究生物

身近な問題について考えてみた2

生物基礎・生物の学習をさらに深める形で、赤潮や海の酸性化の問題を自ら調べ掘り下げています。



応援メッセージ

北海道標津高等学校のみなさんへ

マイクロプラスチックの処理は難しいですが、頑張ってください！
(北海道標茶高等学校)

応援メッセージ

北海道大野農業高等学校のみなさんへ

農業高校ならではの環境保全活動で素敵でした。
(北海道標茶高等学校)
環境保全型農業は自然に循環し、自然にも良いはずなので良い方法だと思った。
(市立札幌開成中等教育学校)

東北 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催

16高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

地方大会最優秀賞(全国大会出場)

青森県立名久井農業高等学校

FLORA HUNTERS

視点はSDGs 節水型塩害抑制技術の開発

(活動の詳細は、本誌P2をご覧ください。)



高校生が選ぶ特別賞(全国大会出場)

青森県立むつ工業高等学校

設備・エネルギー科 地中熱利用
による融雪研究班

R3 課題研究 地中熱利用による融雪研究と農業
(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



審査委員特別賞

山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部

小学生と一しょに在来メダカで環境学習

小学校でビオトープづくりを手伝いながら、在来生物のキタノメダカの生息状況を学んできた。



先生が選ぶ特別賞

宮城学院中学校高等学校

自然科学班

サンショウウオ保護プロジェクト
耕作放棄地の自然再生法の研究

サンショウウオ保護のため、耕作放棄地の自然再生、水辺の環境整備から始めている。



協賛企業特別賞

青森県立三本木農業恵拓高等学校

PINE LAB

廃棄ニンジンを活用した機能性鶏卵の生産を目指して

卵黄色には餌が関係していることを知り、色をオレンジ色に戻すため廃棄ニンジンエコフィードとして活用しました。



協賛企業特別賞

宮城県志津川高等学校

自然科学部

松原海岸の生物調査

導流堤工事の終了に伴って改善された松原海岸の干潟において工事の影響を評価し、地域の環境保全につなげている。



優秀賞

青森県立木造高等学校

ガシャモクチーム

ガシャモク保全活動「ガシャ活」

つがる市で絶滅危惧種1Aの水草「ガシャモク」を守るための活動を進めています。



優秀賞

岩手県立種市高等学校

The seed ～プラスチック～

プラから始まる町づくり

持続可能な海洋産業や海洋資源、海洋環境の保全のために、「ビーチクリーン」を実施している。



第7回 全国ユース環境活動発表大会

👑 優秀賞

秋田県立能代松陽高等学校

チーム松陽

環境課題解決と地域共生について考える

洋上風力発電の計画に強い関心を持ち、現在そして将来についての情報収集に努め、考えていきたい。



👑 優秀賞

秋田県立大館鳳鳴高等学校

生物部

ニホンザリガニのPCRプライマーの検討と環境DNAの調査

ニホンザリガニの生息環境保全のため環境DNAに着目し研究を進めました。



👑 優秀賞

秋田県立新屋高等学校

理科研究部

在来水生生物保全に向けて
～外来種駆除～

大森山動物園塩曳湖の貴重な水生生物を保全するために、外来種駆除に取り組みました。



👑 優秀賞

仙台白百合学園中学・高等学校

02LS05班 食品ロス班

食品ロスの削減

多くの人に日本の食品ロスの現状を知ってもらい、積極的に解決方法を考えてもらうことを目的に活動しています。



👑 優秀賞

宮城県宮城第一高等学校

生物部

光合成細菌を利用した環境改善

多様な環境に生息する「光合成細菌の特徴や生態系での役割」を明らかにする活動してきました。



👑 優秀賞

宮城県多賀城高等学校

SS科学部ヤスデ班

マクラギヤスデの生息北限と未知なる生態に迫る

マクラギヤスデの生息の北限はどこにあるのか調査・研究を行いました。



👑 優秀賞

宮城県仙台西高等学校

地学部

地球温暖化の影響は仙台上空にも及んでいるか

崖の地質、土壌水分率、積算雨量などを精査すれば斜面崩壊発生を予測し警報を発信できると考え測定をしています。



👑 優秀賞

山形県立上山明新館高等学校

総合的な探究の時間 22班

山形県さくらんぼ
～今年度の凍霜害から感じること～

近年霜害という言葉をよく聞くようになり、なぜこのような被害が発生しているのか原因を調べました。



関東 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催
18高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

👑 地方大会最優秀賞(全国大会出場)

富士宮高校会議所

SDGs実践マスマス元肥(げんぴ)を使って、富士宮をマスマス元気に!!

(活動の詳細は、本誌P3をご覧ください。)



👑 高校生が選ぶ特別賞(全国大会出場)

群馬県立尾瀬高等学校

理科部

地域のシカ問題を考える～私たちの取り組む4つの行動～

(活動の詳細は、本誌P2をご覧ください。)



地方大会（東北大会、関東地方大会）



👑 審査委員特別賞

オイスカ高等学校

環境SDGsプロジェクト

浜と松プロジェクト
～災害に強い美しい海岸へ～

クリーン運動や浸食問題、生態系、防潮堤工事と広く中田島砂丘に関わる問題調査に取り組んでいます。



👑 先生が選ぶ特別賞

群馬県立沼田高等学校

赤谷の森くらぶ(赤谷プロジェクト地域協議会)

絶滅危惧種イヌワシの住む「赤谷の森」にドングリの森を復元する

赤谷の森をドングリの森に復元する植樹を決行。ドングリの苗は自分たちで種から育てて「イヌワシ保護地」に植樹した。



👑 協賛企業特別賞

新潟県立加茂農林高等学校

生命情報コース 環境班

ホテルが舞う故郷を目指して

ホテルの学習や河川の調査研究。河川環境の整備と地域連携。地域マネジメントを学習しました。



👑 協賛企業特別賞

静岡県立浜松城北工業高等学校

環境部

「地球にやさしいエンジニア」を目指し共感の輪を拓げる私たちの環境活動！

環境ボランティア活動、防潮堤での森づくり、ジュニアエコクラブ、ISO14001・内部監査員への挑戦など。



👑 優秀賞

群馬県立藤岡北高等学校

環境工学部

小川の未来を考える

ヤリタナゴ懇談会を立ち上げ、保護活動の継承と秘訣を継承。生息環境の維持管理をしている。



👑 優秀賞

千葉県立長生高等学校

サイエンス部生物班

茂原公園のカメについて学ぼう

カメとふれあう体験、クイズ、見分け方のコツなどの講座を、地域の小学生と保護者の方を対象に行っています。



👑 優秀賞

千葉県立松戸国際高等学校

松国1年有志

Enjoy volunteering

参加者が楽しめて仮装して清掃する「ハロウィン清掃ボランティア」を企画。結果、50人の生徒が参加！「Enjoy Volunteering」です！



👑 優秀賞

千葉県立松戸南高等学校

Team Quad-E (Ecological Environmental Engineering Education)

地域の生態系保全のための技術の研究～パートナーシップでSDGsを達成したい～



👑 優秀賞

埼玉県立杉戸農業高等学校

土と緑を育むプロジェクト

杉農園芸科×SDGs
持続可能な農業の実践

持続可能な農業の実践に向けて3つの活動中。雑草たい肥の普及、GlobalG.A.P認証、子ども食堂・フードバンクへの食材提供です。



👑 優秀賞

大森学園高等学校

おもちゃの病院

私たちが行っているボランティア活動

コロナ禍でも何かできないかと考え、非接触型体温計と殺菌ロボットを設計・製作を始めました。



※ 地方大会は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

第7回 全国ユース環境活動発表大会

👑 優秀賞

東京都立府中東高等学校

生物部

府中市多摩川における外来植物の分布について ～アレチハナガサの拡大～

外来生物が最も多かったのは高水敷の敷であることが分かりました。今後、生物多様性を守る活動に繋げていきます。



👑 優秀賞

聖心女子学院高等科

プラスチック・フリー・キャンパス PFC

校内外でのプラスチックの使用を最小限に抑える啓発活動

プラスチックフリー製品の販売によって、実際にプラスチック使用の削減に働きかけるなどの活動を行ってきました。



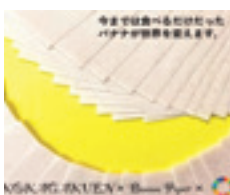
👑 優秀賞

晃華学園中学校高等学校

Banana to The Futures

バナナペーパー

文化祭でブースを出したり、SDGs教材の作成をしたり、普及・啓発を中心に活動しています。



👑 優秀賞

加藤学園高等学校

化学部

COD とBODを比較した化学的視点からの環境問題解決に向けて

河川の汚濁の原因である有機物の正体が、産系農業排水（人ではない物）か、工業系排水（人による原因）かを調査しました。



👑 優秀賞

学校法人静岡理科大学

星陵ラボ・バイオメタン班

バイオメタンのある暮らし

本校の小規模バイオメタン施設を使い、地域に分散して配置するシステムの普及を目指しています。



👑 優秀賞

静岡県立三島北高等学校

アクアパツァ

金魚×水耕栽培

魚の飼育と植物の栽培を組合せて実験を行った。水中に光を当て藻を発生させ魚を飼育することで水耕栽培の効率化が出来た。



中部 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催
7高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

👑 地方大会最優秀賞(全国大会出場)

長野県佐久平総合技術高等学校

食品加工部

酒粕をアップサイクル
～カスを価値に 未来へ佐久咲け！～

(活動の詳細は、本誌P3をご覧ください。)



👑 高校生が選ぶ特別賞(全国大会出場)

長野県木曾青峰高等学校

里山部

青峰里山プロジェクト

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



👑 審査委員特別賞

愛知県立安城農林高等学校

土壌研究研修班

土壌生物利用による循環型農業の研究

枯渇が予測されるリンを根の残渣からシマミミズを用いて循環させることを目標に実験、調査をしました。



👑 先生が選ぶ特別賞

岐阜県立八百津高等学校

自然科学部

アメリカザリガニから学ぶSDGs

アメリカザリガニの腸とエラの中から、マイクロプラスチックを発見。粉砕されたレジ袋であると推察しています。





協賛企業特別賞

愛知県立佐屋高等学校

科学部

自然循環を考えたスクミリンゴガイの防除

スクミリンゴガイはイネを食害します。生物を利用した駆除法、殻の有効利用などを研究しました



優秀賞

岐阜県立岐山高等学校

team 太陽電池ひろめ隊

太陽電池で世界を明るく!!

色素増感太陽電池に使用する色素を廃棄食品から抽出すれば、ごみ問題の解決にもつながります。



優秀賞

三重県立四日市四郷高等学校

自然科学部

四日市四郷高校観察ルートガイドブックの作製 part1

対象エリアの生物生育状況をまとめてガイドブックにする作業で、「幼稚園の先生が幼稚園児と一緒に楽しめるもの」を作製しました。

応援メッセージ

長野県木曽青峰高等学校のみなさんへ

たくさんの生物が生き棲む環境を作るだけでなく、次の世代に教えている所が素晴らしいと感じました。（三重県立四日市四郷高等学校）

応援メッセージ

長野県佐久平総合技術高等学校のみなさんへ

酒粕のパンが商品として出回っていたら買ってみたいです。（岐阜県立八百津高等学校）
清酒の製造工程の中で発生する酒粕を無駄なく利用することは、資源のリサイクルに繋がると思いました。（愛知県立佐屋高等学校）

近畿 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催

15高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

地方大会最優秀賞(全国大会出場)

奈良育英高等学校

生徒会とユネスコ委員会

環境問題は深い

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



高校生が選ぶ特別賞(全国大会出場)

京都府立宮津天橋高等学校

フィールド探究部②大手川探検隊

人、川、ハッピー ～大手川の手がかり～

(活動の詳細は、本誌P3をご覧ください。)



審査委員特別賞

大阪府立豊中高等学校能勢分校

チーム SATOYAMA

能勢モデルを世界へ
～課題を魅力に～

里山保全を目的に、「里山留学生」と生徒が、地域住民、能勢町職員、卒業生、地域おこし協力隊の方々と活動を進めています。



先生が選ぶ特別賞

兵庫県立神戸商業高等学校

県商 理科研究部×生徒会

神戸商業高等学校の海ごみ問題への取り組み

理科研究部)海岸の清掃、漂着ペットボトル調査など
生徒会)海岸清掃、エコキャップ運動、古紙回収、
生徒会新聞にSDGs 情報掲載。



協賛企業特別賞

滋賀県立長浜農業高等学校

園芸科2年 野菜分野

滋賀・伊吹山の棚田から持続可能な生活の表現に向けて

「マコモ」や「マコモタケ」に着目。農業経営の手法である6次産業化から中山間地域の課題解決に有効だと考え取り組みました。



協賛企業特別賞

滝川中学校・高等学校

インターアクトクラブ

山・里・海で豊かな自然を育む

山を守り、里を美しく、ワカメ漁業も支援。
ヒーローショーで啓発活動にも力を入れています。



第7回 全国ユース環境活動発表大会

👑 優秀賞

京都府立宮津天橋高等学校

フィールド探究部①丹POPO班

100年の木と1年の花
～人との繋がりは永遠に～

在来タンポポに魅了され調査を行い7種の在来タンポポを発見。調査から見てきたのは、自然と人の多様な繋がりで。



👑 優秀賞

福知山成美高等学校

ゴーヤ

美しい地域を守るために教室にゴーヤカーテンを！！

ゴーヤカーテンを育成し、できたゴーヤの売上金を豪雨で被災された方に寄付しています。



👑 優秀賞

福知山成美高等学校

Para el future

持続可能なまちづくりを

自校の食堂から出る生ごみなどを「コンポスト」を利用してたい肥化させる活動を行っています。



👑 優秀賞

大阪府立富田林高等学校

魚類相班

石川の生物多様性を取り戻そう！
～環境・魚類相の変遷と現状の分析～

最終的な目標は、環境改善の目標を設定し、地域全体で取り組めるように発信して、石川を生物多様性に富んだ河川にすることです。



👑 優秀賞

大阪府立長尾高等学校

理科研究部 マイクロスケール実験開発チーム
マイクロスケール実験の開発

従来よりも少量かつ安価で実施可能なマイクロスケール実験を実施。1/6スケールを検証した。



👑 優秀賞

大阪府立堺工科高等学校

定時制の課程

エコプロジェクト・チーム

美しい地球を次世代に
～捨てればゴミ、活かせば資源～

地球温暖化防止のため「バイオディーゼル発電機」、プラスチックゴミから油を作る「プラスチックゴミ油化装置」を製作した。



👑 優秀賞

関西創価高等学校

会長とそのなかまたち

ゴーストギア

ゴーストギアという問題により多くの人に関心を持っていただくために私達の意見を広げ、みんなで海洋ごみ問題を解決できるように取り組んでまいります。

👑 優秀賞

兵庫県立篠山東雲高等学校

自然科学部

生き物観察会の取組
～ビオトープの活用～

ビオトープの生き物観察会に小学生約30人が参加。農家対象の生物調査研修会も行い、田んぼの生き物の大切さを伝えていきます。



👑 優秀賞

奈良学園高等学校

奈良学園SS研究チーム

サギソウの生活史から考える保護

準絶滅危惧種「サギソウの生活史を解明し、保護につなげる」ことを目標に活動を行いました。



👑 応援メッセージ

京都府立宮津天橋高等学校のみなさんへ

大手川を川の生き物に触れ合える場にしようと様々な取り組みをされて感動しました。(兵庫県立篠山東雲高等学校)
当部内で、一番関心を持って聞いていました。一緒に活動ができる機会があれば、是非よろしくお願いします。(滝川中学校・高等学校)

👑 応援メッセージ

奈良育英高等学校のみなさんへ

もっと広い視野で環境問題を考えてみようと思います。お互いには頑張ります！(福知山成美高等学校)

中国 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催
8高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容





👑 地方大会最優秀賞 (全国大会出場)

出雲西高等学校

インターアクトクラブ

出雲西高発!! 水環境改善プロジェクト

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



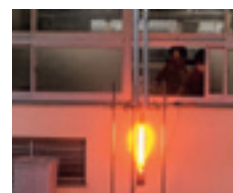
👑 高校生が選ぶ特別賞 (全国大会出場)

岡山県立倉敷天城高等学校

プラズマ・モデルロケット研究班

プラスチックストローで宇宙をめざそう!

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



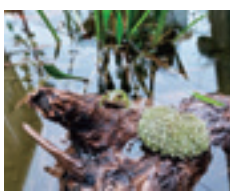
👑 審査委員特別賞

広島県立祇園北高等学校

理数コース

本校飼育池で、モリアオガエルが生息できる環境を目指して

高校内に生息する生物同定を行い、図鑑を作成する研究を行っている。



👑 先生が選ぶ特別賞

岡山商科大学附属高等学校

工業技術同好会

#海が見たい!!

市販の水中ドローンと本校制作のDIY MARINE ROBOTを用いて宇野港湾周辺から調査・実験をしました。



👑 協賛企業特別賞

岡山学芸館高等学校医進 サイエンスコース

#Ryu_Gu

『里海の聖地』におけるアマモ場再生活動および干潟保全・回復活動

日生町でアマモ場再生活動・ベントス調査・課題研究を行っています。



👑 協賛企業特別賞

岡山県立邑久高等学校

科学同好会・有志

ジャンボタニシによる稲苗の食害軽減と肥料化に向けて

スクミリンゴガイの捕獲を実施し、肥料にできないか取り組んでみた。



👑 優秀賞

岡山県立玉野高等学校

チーム小麦2020-2021

パン用小麦ゆめちからの減窒素栽培の確立

肥料中の窒素量を減らしても、品質の良い小麦の栽培方法を確立。



👑 優秀賞

広島県立祇園北高等学校

科学研究部

太田川におけるプラスチックごみの輸送過程と、効率的な回収についての研究2021

水面のプラスチックごみの輸送過程を調べるためGPSを放流した。



四国 地方大会

2021/11/29~12/14 発表動画によるWeb開催
5高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

👑 地方大会最優秀賞 (全国大会出場)

愛媛大学附属高等学校

理科部プラガールズ

海洋性細菌を利用した海洋マイクロプラスチック汚染解消への挑戦

(活動の詳細は、本誌P2をご覧ください。)



👑 高校生が選ぶ特別賞 (全国大会出場)

香川県立三本松高等学校

三高みんなの食堂プロジェクト

三高みんなの食堂プロジェクト

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



第7回 全国ユース環境活動発表大会

審査委員特別賞

徳島県立阿南光高等学校

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

刈草をツールに私たちが取り組むSDGs・持続可能な環境社会への取り組み

「コロナに負けない!みんなでがんばろう」と、「ミニヒマワリ栽培セット」を子どもたちが自宅で楽しい時間が過ごせるよう配りました。



先生が選ぶ特別賞

愛媛県立長浜高等学校

水族館部 チーム・ニモ

JellysGuard Sunscreen UV機能付きクラゲ予防クリームの開発

クラゲに刺されにくく日焼け止め効果のあるクリームを開発。天然由来のミネラルで紫外線散乱剤を使用。海洋環境にも優しい。



協賛企業特別賞

徳島県立徳島商業高等学校

校内模擬会社ComCom

町に笑顔のいりどりを
～上勝から繋がる交流の場～

梱包をした箱や包装紙を廃止し、使用後はランチョンマットや小物入れとしても使えるエシカル消費を意識した商品を開発。



応援メッセージ

愛媛大学附属高等学校のみなさんへ

私たちがプラゴミゼロを目指しているので共感が持てました。
(徳島県立徳島商業高等学校)
海洋性細菌に着目してマイクロプラスチックの調査研究はこれからの研究が楽しみだと感じました。とても素晴らしいです。(徳島県立阿南光高等学校)

応援メッセージ

香川県立三本松高等学校のみなさんへ

食堂を起点に、全校生徒がSDGsの観点で活動に楽しく取り組んでいる姿が、まぶしいです。
(愛媛県立長浜高等学校)

九州・沖縄 地方大会

2021/11/29～12/14 発表動画によるWeb開催

10高校(団体)が出場いたしました。

(掲載)
高校名、団体名、
活動名、活動内容

地方大会最優秀賞 (全国大会出場)

長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

環境保全活動
～持続可能な消費と生産について～

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



高校生が選ぶ特別賞 (全国大会出場)

大分県立大分工業高等学校

DAIKO風車プロジェクトチーム

DAIKO風車プロジェクト

(活動の詳細は、本誌P4をご覧ください。)



審査委員特別賞

福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

絶滅危惧種ニホンウナギのサンクチュアリづくりを通じた2つの地域創生

ニホンウナギのサンクチュアリをつくり、現在までシラスウナギの特別採捕数は10,000尾を超え、飼育した稚魚を8,700尾以上を放流しています。



先生が選ぶ特別賞

佐賀県立高志館高等学校

環境クラブ

佐賀平野は淡水魚の宝庫!
～農業の多面的機能を探る～

佐賀平野の水路網は、絶滅危惧種や固有種の淡水魚の宝庫。魚が棲むにはどのような環境が必要なのかを伝える活動に取り組みました。



協賛企業特別賞

佐賀県立唐津南高等学校

トウガラシプロジェクトチーム

佐賀の農家と環境を救え!
～救荒作物の無農薬栽培への挑戦～

主要な栽培品目が不作の場合でも農業経営が安定できるような救荒作物の栽培方法を確立させることができないかと活動を始めました。



協賛企業特別賞

長崎県立対馬高等学校

ユネスコスクール部

地域と連携した「国境の島・対馬」の保全活動

希少野生動植物種「ツシマウラボシシジミ」という対馬固有亜種のチョウの保護に取り組んでいる。





👑 優秀賞

大分県立大分東高等学校

農業部

地域と連携した景観保全活動

花壇の作成や地域の方々に対し花育活動を行う。小・中学校に出前授業を行う。



👑 優秀賞

大分県立日田高等学校

科学部生物班

二枚貝の移動先に適した環境の発見や調整

淡水生二枚貝（マツカサガイ・ササノハガイ）の保全を目標に研究活動を行っています。



👑 優秀賞

大分県立日田高等学校

科学部物理班

風車の形と発電効率の関係

風力発電に注目し、発電に最適な風車は何かを明らかにしようと風車の製作をすることから始めました。



👑 優秀賞

熊本県立宇土高等学校

科学部地学班 不知火探検隊

知らない現象（不知火現象）を科学する

不知火の観測状況や不知火海沿岸の環境変化の現状を多くの人に伝えるため、研究内容を発信している。



応援

メッセージ

大分県立大分工業高等学校のみなさんへ

素晴らしいシンボルづくりお疲れ様でした！一度見てみたいです。（大分県立日田高等学校）

これからも風車でたくさんのエネルギーを利用して、看板を照らすことや、イルミネーションなどに利用したりしてみてください！これからも頑張ってください！（長崎県立諫早農業高等学校）



応援

メッセージ

長崎県立諫早農業高等学校のみなさんへ

全体的に計画や調査がしっかりと行われているのもすごいいいと思いました。（福岡県立伝習館高等学校）

これからも開発した商品を通し、町を活性化していけるように頑張ってください！（長崎県立対馬高等学校）

農業を学ぶ活動が大変勉強になりました。今後も大変だと思いますが頑張ってください。（大分県立大分東高等学校）



応援

メッセージ

私たちは、ユースの環境活動を応援しています。

ポジティブに行こう！

皆さんの活動は、日本にポジティブなインパクトを与えたと思います。これからも壁はあると思いますが、新たな知見を得るチャンスだと捉えるポジティブな姿勢で、より良い未来のために環境活動を推進されることを期待します。



キリンホールディングス株式会社

未来は皆さんの手で

皆さんがしっかりとした目標を持って地域の課題解決に一生懸命取り組まれていることに感銘を受けました。皆さんの新しい発想と活動一つ一つが素晴らしい未来に繋がっています。仲間との絆を深め、これからも頑張ってください。応援しています。



協栄産業株式会社

純粋な思いに感動

自分たちの活動の意義をSDGsに見出していることがよく理解できました。何よりも心を打たれたのは、自分の住む地域や環境・社会に貢献したいという純粋な思いです。その純粋な思いで活動する多くの高校生がいることを大変心強く感じました。



SGホールディングス株式会社

負けるな高校生

2021年には気候変動対策について話し合う「COP26」が開催されるなど、温暖化対策は待たなしです。皆さんの活動にも様々な制約があると思いますが、勇気をもって前に進むではありませんか。未来を創るのはあなた方です。負けるな高校生。



株式会社タニタ



オンライン
企業研修

よろこびがつなぐ世界へ



キリンホールディングス

愛知県立佐屋高等学校 科学部



愛知県立佐屋高等学校科学部
のみなさん

2022年2月4日(金)、愛知県立佐屋高等学校の生徒10名がオンラインで企業環境研修に参加し、企業の環境保全などの取組を学びました。

豊かな地球を次世代につなぐポジティブなインパクト

企業研修のテーマ

キリングループは、2020年2月に2050年を目標とする「キリングループ環境ビジョン2050」を公表しました。目指すのは、ネガティブなインパクトを最小化してニュートラルにするだけでなく、自社の枠組みを超えて社会にポジティブなインパクトを与えることです。バリューチェーンすべてを対象として、これからの世代を担う若者を始めとした社会とともに、こころ豊かな地球を次世代につないでいきます。



講師) キリンホールディングス
藤原啓一郎さん

【今回の研修】では、「持続可能な生物資源の利用」をテーマに企業の取組を学びました。

事例① スリランカ紅茶農園へのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援



紅茶農園が認証を取得する支援を行う

認証茶葉を調達するのではなく、生産地全体を持続可能にする。

農園の認証取得支援を選択

レインフォレスト・アライアンス認証取得支援の仕組み



事例② 日本ワインのためのブドウ畑生態系調査

椀子ヴィンヤード生態系調査

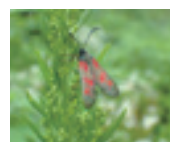
遊休荒廃地を椀子ヴィンヤードに転換する生態系への影響を、2014年から農研機構との共同研究で調査を開始



遊休荒廃地を日本ワインのためのブドウ畑に転換していくことは、生態系に悪影響を与えないのか

農研機構の調査の結果、椀子ヴィンヤードが希少種を含む多様な生態系を持つことが判明。草生栽培と適切な下草管理を行っている草生栽培のブドウ畑が、広大で良質な草原を構成

生態系調査で見つかった希少種を含む多様な生きもの



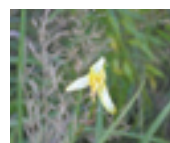
ベニモンマダラ



クララ



ウラギンスジヒョウモン



ユウスゲ



メハジキ



スズサイコ

<愛知県立佐屋高等学校> 研修後、参加高校生の感想(抜粋)



<参加高校生>

中島冬陽さん、佐野雅典さん、藤田隼人さん、赤波江諒也さん、佐藤結衣さん、佐藤綾花さん、宮本彩名さん、有賀楓さん、佐藤大聖さん、宮崎大輝さん

- キリンホールディングス様の発表を楽しみにしていました。企業としての環境保全活動は、意外に知らないことが多いので、とても勉強になりました。企業が考えるビジネスモデルとしての環境保全活動は、学校で学ぶ私たちも取り組むべき内容が多いと思いました。
- 科学部では、野外活動、調査データのまとめや発表など様々な体験をしてきました。大学に進学したら、生物資源と資源循環について学びます。今回教えていただきましたSDGsへの取組や、生態系に配慮した活動はとても参考になりました。
- 1つの目標に向かって、国が、世界が声を上げ、協力して目標を達成しようとしている。そこに大人も子どもも関係ない。その先陣を切っているのが企業の方々であることを、今回知りました。
- 環境を守るという行為は、世界の誰か、かけがえのない命を救うということを自覚しました。今後も科学部では活動を通して生物多様性を考え、たとえ小さな環境問題であっても解決できるように頑張っていきたいです。

キリンホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。





協栄産業株式会社

ペットボトルリサイクルは、身近で重要なSDGsアクションです!

ペットボトルリサイクルで日本初の「ボトル to ボトル」を実現した協栄産業株式会社。全国ユース環境ネットワークでは、今年も新型コロナウイルスの影響で、協栄産業での高校生企業環境研修を実施できませんでした。そこで、ユース事務局スタッフが、ペットボトルリサイクルについていろいろとお話を聞いてみました。

<ユース事務局 取材>

ペットボトルリサイクルについて聞いてみました。



Q1 ペットボトルって、どのようにリサイクルされているんですか？ また、ペットボトルリサイクルにおいて、協栄産業の日本初、世界初の「ボトルtoボトル」と「FtoP」って？

回収したペットボトルを選別、破碎、アルカリ洗浄し、乾燥をさせてフレークにします。それを熔融・ろ過して目に見えない不純物の除去と物性回復を行い、高純度ペレットに加工し、もう一度ペットボトルへと生まれ変わらせます。これが2011年に日本で初めて開発した「ボトルtoボトル技術」です。この新技術は約63%ものCO₂削減効果に加え、ペットボトルを再びペットボトルとして繰り返し使用し続けることを可能にしました。また、2018年には、従来のリサイクル工程を半減する「FtoPダイレクトリサイクル技術」を世界で初めて開発しました。弊社の新技術により製造された再生原料は各飲料メーカーの皆さまに採用いただいております。

Q2 とても環境に良い取り組みですね！ 更には2020年に新しく西日本にも拠点を作られたとお聞きしましたが？

西日本PETボトルMRセンターは、中部・近畿地区で初の「ボトルtoボトル」用原料の製造を一貫して行う工場です。「ボトルtoボトル」で協業しているJ&T環境とのペットボトルリサイクルの運営実績を生かし、国内全体の需要に応える生産体制と安定供給体制を構築します。こちらの工場は、今までは「ボトル to ボトル」の原料として利用が難しかった自動販売機、オフィス、コンビニ、駅構内、公共施設等から排出・回収されるペットボトルの再資源化も可能にする工場で、ペットボトル資源の更なる国内循環の拡大を目指しています。



Q3 御社の取り組みは、身近で重要なSDGsアクションかと存じますが、具体的にどのような目標に貢献されるのでしょうか。

ペットボトルリサイクルは誰でもできるSDGsの取り組みであり、5つの目標達成に大きく貢献できると考えております。特に、同じ用途で繰り返し利用する「ボトルtoボトル」という水平リサイクルの取り組みは、環境負荷低減や持続可能性に優れています。今後もステークホルダーの皆さまのご協力を賜りながら、「持続可能な社会の実現」に向け、国内資源循環の拡大に取り組んでまいります。

弊社から高校生(ユース)の皆さまにお伝えしたいこと

ペットボトルは持続可能な社会を実現させる貴重な資源です。より多くのペットボトルを資源として生まれ変わらせるためには、外出先等あらゆる場所で皆さまに「飲み終わったペットボトルのキャップ・ラベルを外し、軽く水で注ぐ」という日頃からのご協力が必要不可欠です。未来の子供達に豊かな地球環境を繋ぐために、そして持続可能な社会の実現に向けて、これからもペットボトルリサイクルへのご協力をお願い申し上げます。



協栄産業は、ユースの環境活動を応援しています。



SGH SGホールディングス株式会社

走行中にCO₂を排出しないEVトラック（試験運用中）



SGホールディングスグループは佐川急便を中核に持つ総合物流企業グループであり、デリバリー事業、ロジスティクス事業および不動産事業などの事業分野でビジネスを展開しています。2万7,000台以上の車両を使用し、グループ全体では約39万t(2020年度)のCO₂を排出している物流事業者として、環境対応車の導入などを通じて、環境に与える影響の軽減に取り組むことは大きな責務です。

※車両台数、CO₂排出量は国内グループの数値

当社グループの環境への取り組み（主な取り組み事例）

気候変動に関する取り組み

◆ 環境対応車の導入

従来のガソリン車やディーゼル車に比べ、排気ガスに含まれるCO₂の排出が少なく、地球環境への負荷が小さい環境対応車（ハイブリットトラックなど）の導入を進めています。

◆ サービスセンターの設置

佐川急便は、トラックなどを使用せず台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター（SC）」を全国に約340か所設置しています。1か所当たり3～5台の車両使用を抑制でき、全センター合計では車両約1,500台分のCO₂や大気汚染物質を排出削減しています。



サービスセンター

再生可能エネルギーに関する取り組み

◆ 環境配慮型物流施設

SGリアルティでは、電力の安定供給と環境負荷低減につながる物流施設の開発を行っており、現在、太陽光発電設備のあるグループの配送拠点・流通センターは全国に100施設あります。

物流施設のSGリアルティ和光においては、最新の自家消費型太陽光発電システムを導入しており、太陽光パネルによる自然エネルギーの創出などによって、年間エネルギー消費量の実質ゼロを実現しています。



SGリアルティ和光

私たちとSDGsとの関わり

SGホールディングスグループは、総合物流企業グループとして、事業を通じた社会課題解決を図り持続的な成長を目指しています。2019年度からの3年間にかけた中期経営計画「Second Stage 2021」では、重点施策のひとつとして「SDGsへの貢献」を掲げました。また、CSR重要課題として7課題を特定し、それぞれのテーマに沿ってグループ各社で取り組みを推進しています。

◆ 7つの重要課題 …… SDGsへの貢献



安心・安全なサービスの提供	SGホールディングスグループは、2万7,000台以上の車両を保有しており、交通事故などのインパクトを最小化することは、この事業に携わる者の責務です。SDGsで掲げられている「2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」という目標に対して取り組んでいきます。
環境に配慮した事業推進	SGホールディングスグループでは、物流事業を通じて車両や物流施設での各種設備によるエネルギー使用が環境に影響を与えていることから、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「13 気候変動に具体的な対策を」に対して取り組んでいきます。
個性・多様性を尊重した組織づくり	SGホールディングスグループは、多くの人に関わる物流ビジネスを主として営んでおり、一人ひとりのモチベーションの維持・向上は重要な課題です。また、男性比率の高い職場が多いことから、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「8 働きがいも経済成長も」に対して取り組みます。
総合物流ソリューションによる新しい価値の創造	物流の効率化やテクノロジーの活用により、環境負荷の低減や暮らしやすいまちづくりおよび産業の発展に貢献します。
地域社会への貢献	国内外の様々な地域で事業を展開している企業グループとして、環境・経済・社会の観点から総合的にSDGsの実現に向けた取り組みを行っていきます。
サステナブル調達の推進	ビジネスパートナーとの連携において、人権や安全面に配慮したお取引はもちろんのこと、環境面や地域への貢献など多方面において協力しながら、ともにSDGs全体の達成に貢献していきます。
責任ある経営基盤の構築	経営基盤となる「コーポレートガバナンス」「コンプライアンス」「リスクマネジメント」は、事業活動すべてにつながる重要課題です。持続可能な経営体制の構築への取り組みを通じてSDGs全体の達成に貢献します。

SGホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。

TANITA タニタ

埼玉県立杉戸農業高等学校
土と緑を育むプロジェクト



埼玉県立杉戸農業高等学校
土と緑を育むプロジェクトのみなさん

2021年11月28日（日）、埼玉県立杉戸農業高校の生徒4名が企業SDGs研修に参加しました。タニタが推進する全国の郷土料理の活性化、まちおこしのための大会『ご当地タニタごはんコンテスト』を視察。地域のSDGsや農業、食品産業の未来について考えました。

『第4回ご当地タニタごはんコンテスト』～ヘルシー郷土料理で健康まちおこし～

コンテストの目標

タニタ食堂のバリューを活かし、全国の郷土料理と「タニタが考える健康的な食事の目安」がマッチングすることで、健康的かつ地域の新たな食の可能性を創造し、郷土料理の技術や歴史を次世代に継承していくこと。

コンセプト

- ① 郷土料理の継承
郷土料理を「健康」という視点からレシピをリ・クリエイトし、郷土料理の新たな魅力を創造
- ② 人材育成
老若男女問わず参加しやすくすることで交流を通し、文化や技術の継承
- ③ 地域活性化
郷土料理の新たな魅力を引き出すことで、国内・海外の旅行客からの注目を集め地域をPR



ご当地タニタごはんコンテスト

『第4回ご当地タニタごはんコンテスト』表彰（料理抜粋）



エゾシカ肉のロースト等



京のハイカラ味めぐり等



海のぬくもり～カラフルお寿司～等

企業研修（SDGs趣旨説明）

『ご当地タニタごはんコンテスト』は、安全・安心かつ健康的な「食」のソリューションとしてリ・クリエイト。郷土料理の継承とともに、新しい地域の特産品として広く認知・普及させ、地域の活性化に結び付けます。「日本を丸ごと食する」をテーマに予選会および全国大会における外国人などの旅行客を誘致し、これまでにない日本の食文化に触れてもらうきっかけとして当企画を立ち上げました。来年は、ぜひ高校生のみなさんもエントリーして、郷土料理の活性化に挑戦してください。



講師）タニタ 猪野正浩さん

<埼玉県立杉戸農業高校> 研修後、参加高校生の感想

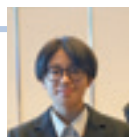
3年 石川 泰地 さん

これらの料理は、その土地の名産をアピールすることができ、SDGsの3番「すべての人に健康と福祉を」に当てはまっていたりなど、いろいろなことにつながっているのですねと思いました。



3年 栗原 薫 さん

郷土料理を親しみやすくするだけでなく、食品ロス減少につながる活動や地域の協力、健康面への配慮などがあり、一つの活動でこんなにもSDGsの目標につながることを、できることがあることを知り驚きました。



3年 大塚 翔馬 さん

各地域の郷土料理について知識や理解を深めることができました。また、健康的な食事としてカロリーや塩分を抑えアレンジをした料理や郷土料理は、新たな食の可能性を感じることができました。



2年 小山 廣翼 さん

野菜をつくったり肉を獲ったりするなどの責任とそれをつかう責任、これこそがSDGsの目標「12番」につながるのだと再確認しました。また、これらのことは食品ロスなどの解決策であると思いました。



タニタは、ユースの環境活動を応援しています。

GEOCは、NPO、市民、企業、行政等の各主体がパートナーシップで持続可能な社会の実現を目指す拠点です。

併設するセミナースペースは無料で利用することができ、様々な団体がイベント等に活用されており、年間3万人超（2019年度実績）の来場者があります。



GEOCチャンネル



持続可能な社会に向けて、一人ひとりの行動を見つめなおすきっかけになるようなイベントを開催しています。多彩なゲストを迎えて実施したオンラインイベント等の様子をGEOCチャンネルから視聴いただけます。



環境の総合情報サイト「環境らしんばん」

持続可能な社会づくりに関する情報や、環境イベント等を発信していただくためのウェブサイト「環境らしんばん」を運営しています。

団体登録をしていただくと情報を掲載できます。情報収集にも広報にもご利用ください！



全国EPOネットワーク

GEOCは全国8カ所のEPO（地方環境パートナーシップオフィス）と“全国EPOネットワーク”を形成して、地域の環境情報の受発信やご相談対応、パートナーシップ形成支援など地域の環境課題解決のためのサポートを行っています。

地域の環境やSDGs、環境教育について「情報が欲しい/知りたい」「イベントの講師を紹介して欲しい」「企画について相談したい」等の気になる事があれば、ぜひお近くのEPOに相談してみてください。



地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

<http://www.geoc.jp/>

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

お問い合わせフォーム：<http://www.geoc.jp/contact/>

GEOCは、ユースの環境活動を応援しています。

大学生の環境活動・SDGs活動

独立行政法人環境再生保全機構は、ecocon 2021を応援しています。



ecocon2021 (エココン2021) が開催されました！

ecoconとは

ecoconは、2003年から「大学生の環境活動の活発化」を目的に、環境に関する様々な分野で活動されている学生の環境活動を、多角的に評価・表彰するコンテストを実施してきました。参加団体は、ecoconを通じて団体の活動や自分自身のあり方を見つめなおし、団体同士の交流の場を提供することで新たな行動のヒントをつかむことができます。

一昨年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響も受け、コンテスト形式ではなく、ワークショップ形式で実施しています。新型コロナウイルスは、従来のライフスタイルが大きく変化したことで、環境学生団体の活動対しても大きな影響を与えました。こうした中で、今後ecoconが、全国の環境団体が活動を共にし、サポートしあうきっかけを提供したいと考えています。



ecocon2021開催

2021年12月26日にecocon2021を開催しました。今年は、「各団体が自分たちの強みを再認識し、様々な悩みを持つ団体同士が協力し、環境団体全体を盛り上げる」ことをテーマに、ワークショップ形式で行いました。5団体の参加があり、自分の団体の課題を全員に共有し、参加者全員で解決策を考える機会になりました。

参加者の声

- ・自団体の課題に対して、他の団体の意見を得ることができて良かった。
- ・他団体と交流することで、新しい発見があった。自分の団体に持ち帰りたい。
- ・いろんな活動が知れて大いに参考になりました。とても楽しかった。

ecocon2021参加団体紹介 (5団体)

キャンパスエコロジーフォーラム

1999年に発足した法政大学公認の環境系サークル。棚田班、里山班、学祭班、企画班、ごみ班、エコライフ班などといった班に分かれて活動を行っている。メンバーには、学生のほかに社会人学生や教職員も参加し、多様な活動につなげている。

新潟環境ネットワークN-econet

新潟県内で環境活動やボランティア活動する学生のネットワークを形成している。ネットワークを活性化させることでモチベーションの向上や活動の発展を目指す。

東京農工大学 ごみダイエットNOKO

東京農工大学の農ゼミに所属するサークルで、自治体イベントでのエコレンジャーショー披露や、農学部学園祭での非木材紙トレー普及とその堆肥化など様々な活動を通じて、環境状況の改善や環境への関心を高めてもらうことを目的に活動している。



北見工業大学環境保全学生委員会 KITeco

大学がISO14001の認証を取得するにあたって発足された団体で、大学や地域の環境をよりよくし、生活しやすい場所にするために、ゴミ拾いやプランターの設置、廃油でキャンドルづくり、SDGs勉強会などの環境活動を行っている。

公立鳥取環境大学 学生EMS委員会

EMS委員会は、年5回清掃活動を行っている。活動は学内に留まらず、企業や他団体と協力イベントも行っている。持続可能な地域づくりを目指すべく様々な活動やイベントを通して日々自分たちの能力を高めるべく活動を行っている。

トピックス

全国大学生環境活動団体調査の実施

新型コロナウイルス感染症は、大学生の学生生活にも大きな影響を与えました。講義等がオンライン主体となり、学生同士が直接顔を合わせる機会も減少しました。一方、大学生の間では新しい価値観が生まれ、持続可能な社会の実現に向けた活動が実践されてきています。

環境再生保全機構・全国ユース環境ネットワーク事務局では、様々な環境とよばれる分野で活躍している大学生の環境活動団体を、WEBやSNS等を活用して活動状況の調査を行いました。調査の結果、201の団体が全国で活動していることがわかりました。今後、これら団体と連携、情報交換を行いながら、大学生の環境活動を盛り上げたいと考えています。





地方&全国大会総集編 HP & Youtube 案内

「第7回全国ユース環境活動発表大会」は新型コロナウイルスの感染拡大の防止対策、そして高校生や先生方、すべての関係者の方々の健康と安全を最優先とし、環境活動の発表動画を審査する Web発表大会形式での開催となりました。

全国ユース環境ネットワークでは、8地方大会、そして全国大会におけるそれぞれの発表動画、講評、表彰などを収録した「総集編動画」を制作し、YouTubeの環境再生保全機構の公式チャンネルで公開しています。また、全応募団体の活動紹介をHPに掲載中です。

ぜひ、全国の高校生たちが熱心に取り組む環境活動・SDGs活動、そして地方大会・全国大会の模様をご覧ください！

① YouTube ERCA 公式チャンネル

発表大会・交流会の動画を公開中！



② 全国ユース環境 ネットワーク HP

応募全団体の活動紹介を掲載中！



事務局 より

第7回全国ユース環境活動発表大会を終えて

全国ユース環境ネットワーク事務局です。皆様のご協力により、第7回全国ユース環境活動発表大会を終えることができました。ご応募いただいた全ての高校生の皆さん、先生方に、心より御礼申し上げます。今後も環境活動を継続し、次回の大会にもご応募いただきますよう、お願いいたします！

ここでは全国大会に出場した2校をピックアップして、環境活動の紹介をさせていただきます。

群馬県立尾瀬高等学校 理科部

ニホンジカから地域の植生、美しい景色を守るための活動をしています。継続調査結果や地域の自然の状況から「育て・増やす」、「守る」、「調べる」、「伝える」これら4つの行動を取り組んだ活動は多くの地域の方々を巻き込んだとても素晴らしい活動でした。



大分県立大分工業高等学校 DAIKO風車プロジェクトチーム

途中大きな壁にぶつかっても、諦めず行動し続けた姿が、他学科の生徒、多くの協力者を呼んだ活動です。工業高校の強みである専門性も活かし、風車と太陽光で作った再生可能エネルギーで大看板の点灯に成功したというエピソードはとても感動的なストーリーでした。



全国ユース環境ネットワーク事務局

たくさんのご応募、ありがとうございました！
次回の大会もよろしくお願いいたします！



〈主催〉全国ユース環境活動発表大会 実行委員会（環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステイナビリティ高等研究所）
〈後援〉読売新聞社
〈協賛〉キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ

私たちは、ユースの
環境活動を応援しています。



環境再生保全機構からのお知らせ

読み終わった本で環境保全活動に貢献しませんか？



「本de寄付」は本やDVDの買取金額が寄付金となり、NGO・NPOの環境保全活動に役立てられます。

① 読み終わった本を 段ボール箱へ

〈送れるもの〉
書籍・コミック・CD・
DVD、ゲームソフトなど

② 「本de寄付」に 申し込む

ホームページ
からお申し込み
下さい。



③ 送料無料で お引き取り

ご指定の日時に
配送業者が無料で
集荷に伺います。

④ 買取金額が 寄付される

ご寄付額を記載し
たお礼状を交付し
ます。

SNSでユース事業のほか、助成団体の活動、地球環境基金のイベント、講座、研修のご案内等を発信しています！

フォローをお願いします！

Instagram



twitter



お問い合わせ(平日10:00~17:00) ● 申し込み先 ☎ 044-520-9606